



会報 第 6 号

発行所 立 木 農 業 高 等 学 校
真 岡 農 業 同 窓 会
発行人 同 窓 会
編集 同 窓 会
印刷 同 窓 会
印刷 同 窓 会

随 想

同窓会長 田上 昇



世をあげて不景風が流れを早めようとしているとき、私共農事情も御多聞にもれず渦の中に巻き込まれそう。稲作の減反でさへ目の色が変わってきたのに、今度は行革の波が国鉄から食糧管理にまで押しよせて政府管理米より、自由米の数量が大きくなって米価の値上がりは当然お預けとなるようだ。

最近欧米の先進国の経済運営が意のままにならず失業の増加も憂慮され、貿易赤字の解消減額等深刻な対応をせまられ、そのとばかりで、勢い日本製品の輸入制限となり、そのとばかりで、あちらの農産物を我が国への輸出へと発展させて、関税の引下げを要求するやに窮われる。

こんな風に不利益要件が幾つか重なってその対応策としてコストの引き下げといふこむずかしい問題にとり組むことを余儀なくされよう。農業後継者もほとんど零に近いことを思うと、これから先二十年三十年には可成りの農家が農業から脱落する破目

八幡が丘と大野原

学校長 岡本 博

三月二日に昭和五十六年度卒業式を行ない二一八名の卒業生を送り出しました。今年の卒業生は第七十二回の卒業で、卒業生総数が一万一千六名に達しました。

一回から六十一回生までは八幡が丘で、六十二回生からは大野原で卒業しました。真岡農業高校は卒業生皆様の心の故郷であると思います。八幡が丘の学び舎にあったものを現在は大野原の学び舎に移転しましたが、昔の面影を残しているものをいくつかご紹介しておきます。

御影石の懐かしい「正門」は生徒通路東口に「東門」として残され今も朝夕生徒が利用しています。昭和十年に御親睦会受記念に建てられた「国旗掲揚塔」は正門から校舎への見付に残され、毎朝生徒代表が掲揚しています。

通学道路の土堤に植えてあった「どうだんつじ」は庭園の主要なところに植えられ、正門から玄関への通路の両側に植えてあった「たまいぶき」は生徒ホームルーム棟の南側に植えられ、環境美化に重みを添えてくれます。

農業教育に思う

真岡市長 菊地恒三郎



真農同窓会が田上会長さん

を頂点にします。これは、同窓生一人としてよるこびに耐えられません。

創立以来七十四年の歴史を積み重ねてきた母校は、まさに農学校の名門として多くの人材を送り出し、この地方の農業発展の礎を築きその使命と役割を見事に果たしてきました。

戦後日本の産業経済は驚くべき発展を遂げてまいりましたが、その反面農業は今極めて厳しい時代を迎えて新たな方向を探し出していかなければならなくなりました。後継者の問題、アメリカ、カナダ等外国農産物の大量輸入、食糧自給率の激減等々それは農業の技術や農政のわくを越える国家的な大問題であり、農業構造の新たな改善が必要になつてきております。日本の農業を支え発展させてきた農学校の農業人教育も今大きくそ



後継者への一言

真岡市議会副議長 田上 進一



過去における芳賀郡市の農業後継者は、真農高に進学することにより三ヶ年間の農業課程を、修得した卒業生は、大部分就職しそれぞれの地域において、その地域の特性を生かした、農業経営に更に地域のリーダーとして活躍し真農校は農業経営の、メッカとして存続してまいりました。

ところが最近の卒業生はどうでしょうか、学校当局に聞きますと後継者の中で、地域に残って就職する人約五〇パーセント、とのことであり勿論過去の生徒に比し、入学の定数、目的、選択の違いがあり一様には計れません。全国的に見て後継者が高校、大学を卒業して、都会又は勤

へと云わば頭脳の良い人、優れた後継者は、総じて農業離れの傾向にある事は、否めな

い現実であります。これは農業と云うものが真の労働の割りに所得が少い、かつ将来に対する夢が少ないと云う事で、公務員や会社員にあ

こがれる為であります。就農するか、勤め人になるか二者択一その人の経営規模、能力、適性によって、軽々に断言は出来ませんが、私は

母校の卒業生、就中、後継者諸君には、少くとも兼業農家でも良い、名実共に後継者として地域に残り土を耕しても

らいたいのであります。後継者が年々、減少している姿を見ると、地域の農業は将来どうなることかと、疑念を感

型規模拡大に希望をかけ、稲作り麦作り或は畜産に精進している若い後継者がいることも見逃すことが出来ません。後継者の諸君に一言申し上げたい君達は農業を職として、親の職業を継いでやって行くという、当人の希望によつて、真農校に入學した訳であり、三年間の修得された知識と技能、地域の農業振興に役立て、欲しいのであります。一人でも多く地域に残り、卒業後も学校と地域農業が、結びつきを深めながら期待される真農校として存続され発展されんことを祈念して止みません。



又兼業農家の農地を借り、大

真農に学びて

大内支部長 大塚 克巳
私は昭和十一年卒業生（第二十七回）として十二年三月八幡ヶ丘（現工業高校）の学舎を築きました。以来四十幾星霜、長い年月を経たものどつくづく想う昨今であります。

当時の本校は文部省より農業教育研究校の指定を受け第五代校長孤塚清五郎先生の陣頭指揮で教職員一丸となつて目的達成のため尽力しておられました。大野原開墾第二年度でしたので入学早々鎌を手にして茫々たる原野に汗を流すこととなりました。世情は昭和初期の世界的な経済恐慌が衰えを見せず、植民地政策

親子三代の我が家

昭和二十七年卒業 井野 博



私の親父は十四回卒で七十才その昔に近衛騎兵であつた。太平洋戦争にも参戦してベトナム南部の地で終戦をむかへる。そして今も頑固一徹な姿で健在で何よりの事です。私もいつの間にか四十七才、良き農家の指導者になれと強調された、小林校長先生の時代にPTAと同窓会はもとより、生徒会等の活動が最も盛んな戦後の第一期黄金時代とも言われたときに本校に学んだ。同窓会青年部の結成に参画して、以来二十数年余り学校と同窓会にかかりを持って母校の発展する雄姿を、つぶさに見守り続けて今日に至る。昨春の四月に縁あって、私共の長男が本校に入學する。この事柄を私の両親はこのほかに喜んでくれました。卒業

農業後継者 対策に思う

昭和二十二年卒業 加藤 士 博



近年農業を取りまく状況は極めて厳しいものがあり、相次ぐ減反、外国農産物の流入などによる国内価格の低迷など前途に暗い陰を投げかけています。従つて農業を継ぐものが少なくなつて昭和五十七年度は県内でも百七十四人と史上最低に落ち込んでしまつた。高卒を卒業し農短大で専門技術を身につけて命を懸けて出るときは毎年学費と生活費を要する。昭和五十七年度は県内でも百七十四人と史上最低に落ち込んでしまつた。高卒を卒業し農短大で専門技術を身につけて命を懸けて出るときは毎年学費と生活費を要する。

我が母校を思う

二宮町農業委員会会長 佐藤 利一郎 昭和二十二年卒業

私は歴史と伝統ある真農校を卒業して三十五歳の歳月がたちます。大東亜戦争の真最中の昭和十九年に入学し終戦後の昭和二十二年に卒業しました。私の学生生活は大体戦争中が半、分、終戦後が半分と云う不規則な生活でした。生徒数一学年定員百名で全部で三百名で女子部が百名増となりました。

私は農業後継者でしたから卒業後は立派な農業人として生活するのだと心に秘め希望に満ちて八幡ヶ丘にある真農校に入学しました。戦争中でしたから学校生活は厳しく服装については戦時帽子をかぶりゲートルを巻き地下足袋

農業後継者育成 についての雑感

農業改良普及員 岡田 武 昭和三十四年度卒業

私が本校を卒業したのは、昭和三十五年の春でした。あれからもう、二十二年の年月が流れてしまいました。年月の流れの早い事に全く、驚ろきさえ感ずる今日この頃であります。

最近、農業高校に学ぶ生徒の中で、就農する青年は減少



られ又民主主義とはなんであるか。人民の人民による人民の政治と教わりました。実習については報徳農場に通うだけで農業と云う物はこうであると教わりました。今思い出すと私が現在あるのは多くの良き友を得、豊かな人間形成と強い農業精神忍耐と根性を学校で教育してもらつたと思ひ、良い学校を卒業したと感謝しております。最後に母校の益々の発展をお祈り致します。

不足は、学校教育にあるいは、社会環境が原因しているように言われがちであるが、それらの事も一因であることは確かである。親達の自信に満ちた日常の姿を子供に示すことが本當の農業後継者育成なのではないのだろうか、とつくづく考える今日この頃なので

青年部活動に思う

昭和四十七年度卒 広田 茂十郎

光陰矢の如し。私が卒業してからの九年間が過ぎ去ろうとしている。仙波部長から引き継いだ青年部長の大役も瞬時のうちに一年という時間が流れてしまふ。時の流れの早さ、社会の変動の大きさに、とまどいすら感じざるをえない。

日本の農業も、大きな変化と数多くの問題をかかえ、私達若い農民の不安と憂いにも大きいものがある。

日本の食糧自給率は、ついに33%になったという。一方、世界を見渡した時、人口の世界的増加、アフリカなどに見られる食糧難による大量餓死、農地の砂漠化、塩害などによる不毛化、種子産業への大企業進出による独占化などが進んでいる。もはや、食糧は戦略物資とさえ言われている。こうした中で、日本の農業は、三分の一の自給力しかないのである。これは、単に食糧問題だけでなく、国の安全保障、また、独立国家と

自由とは

昭和四十七年度卒 大塚 重光

一雨ごとに春の気配を感じさせる頃である。今日も朝からどんよりとした曇り、ほの気持だけの雨が降っている。こんな日は何となく、憂うつな気持と、その反面「あゝ雨だ」今日は仕事を休みにしよう、などという軽薄な気持が頭を持ち上げてくるのも事実である。(こんな気持は、私だけかもしれないが)遅くなってしまうが、私自身を紹介しておく、農業が変ってきつつあるようだ、

研修旅行を終えて

青木 良雄

どのようにかと言うと自由があるという事は、その中で自分で自分を拘束しなければ、何事も成りたつて行かないという事である。もし仮に雨が降ったからと言って、その度に休みにしていたのでは仕事の段取りなど、あつたものではない。

自由の中で、自立した農業をしていくには、自分なりに確固たる信念と、綿密な計画を持ち、身がつてな行動をおさえて、人とのつながりや、人情思いやりと言ったものが、おのずから必要になってくるのである。こういった多くの束縛された環境の中でこそ、真の自由が生まれてくるのではないだろうか。

こんな事を考えながら、それでいて雨が降ると何やら「ほ」とするの何故だろうか。

夜半過ぎからの雪で、一面は銀世界と化した一月十五日、泊二日の研修旅行が始まりました。柏崎先生を始め、他三人の先生方と私達十四名は、予期し得なかった雪に戸惑いながらも、一路、千葉へ向かって出発しました。

千葉県に入ると、山武農業協同組合横芝事業所を尋ね、職員の方に、改善事業の一環として、ハウス団地では、七つおられる新島園芸組合を案内していただきました。このハウス団地では、七人の方がトマトの越冬長期栽培に取り組んでおられました。十二月から六月まで収穫期をもつこの栽培でも、燃料費の動静は、最も気になる所です。

オイルショック以来、燃料費の高騰と各資材の値上げは、経費の軽減を迫るハウス栽培にとって、最も困難となり、まして、生産物の価格は、当初と殆ど変わっていないという点に問題が残され、今後の課題にもなっているように思いました。私達の中でハウス栽培に取り組んでいるものにとっては、無視することのできない現状に、頭を痛めていました。

視察を終え、私達は勝浦へと足を早めました。その夜の懇親会では、今までにない楽しいひとときの中で、親睦が深められたと思います。たとえ一晩だけでも寝食をともにすることで、役員同志の連帯感が深められ、先生方とも親睦を図ることができて、とても意義深い一泊二日の研修旅行となりました。役員間の親睦を図りつつ、先進地視察を行うことで、より新たな知識や技術、情報を吸収することができ、今後も、青年部活動の一つとして、続けていきたいと思います。



専業農家としての道

昭和二十九年卒 黒崎 宣芳

この度、私は、同窓会より優良農家の表彰を受けました。が、決して、そのような器ではないことは、私自身よく存じております。

真岡農高を昭和三十九年度に卒業して以来、農家の後継者として、今日まで、農業を続けていくわけでございます。

十二年前、私は二十四才の時に、父より、水稲栽培を全面的に、任せられました。まだ栽培に不慣れなもので、父から、先輩や、父やらの指導を受けながら、多収穫へと力を入れて来ましたが、

その次の年、昭和四十六年から四十八年まで、米の生産調整が、始まり、いささか出鼻をくじかれた思いが今でも残っています。四十八年に、農閑期の問題もありまして、ビニールハウスのイチゴ栽培を取り入れ、水稲、夏収穫、イチゴと、年間通じて、農業が出来るような体系を取って来ましたが、

他の農家では、農閑期を利用して、工場などに勤務するようになり、専業農家が少なくなりました。米は余る一方「このままでは農業がだめになる。」

私は近くの先輩と農作業の受託について何回も話し合いました。昭和五十一年になると、町の経済課から、農業振興給付金があり、国の金で受託農機グループを結成しました。芳賀町南高農協東部管農クラブと名づけて、クラブ員七名で新しい専業農家としての道を歩み始めました。農業に関する事でしつらな



研修旅行に参加して

茂木支部長 大正十三年卒 飯村 孝義



私たちの真陸会は、春の総会、秋の研修旅行を、毎年欠かすことなく年中行事として実行している。本年の研修旅行は八月二十六、七日一泊二日で、いづれ湯のさと塩原温泉の探勝であった。参加者約二十名あり、旅館のマイクボックス利用によって足の確保ができ、一行に、大先輩の須藤地区柳岡宗さんのご参加のあったことは、旅に一段と花を添え、又、私たちに大きな喜びと励ましを与えることになった。当日午前九時半茂木町役場前を出発することに、第一陣に十余名が乗り込み、途中数名を合わせて一同一路塩原温泉へ向った。道すがら車内で農事を語り、よもやま話にふけりながら、なごやかな雰囲気の中で西那須野町に着いた。ドライインで小休止をとり、昼食を済ませず時を過ぎた。ここから旅館差し向きの待つていた別の車に乗りかえ出発した。

関谷から温泉郷に入るや、曲りくねった街道をすべるように走るうちにも、誰かの口から「だんだんいい、いい来ても塩原の緑の溪谷美はいいな」と歓声がこえてきた。車は間もなく下塩原、ホテル「ニューカスミ」に着く。

新装なってまだ一年足らずの明の白亜のホテルが、森の中に私たちを待っていた。早速部屋に案内され、旅装を解いて一ぱいのお茶にのどを潤

し、旅先での歓談にもひとしお楽しさと味わいが感じられた。また、しばしの後、いづれ湯にひたるお互いの顔には、日頃の疲れを洗い落すことができて、この上もない満足が見られた。午後六時からの懇親会は、胸襟を開いてくつろぎ賑わう楽しいムードに皆満喫、盛会に有意義に終った。

翌日はホテルを午前九時出発になり、帰路烏山町「ヤスゲ長寿園」に立寄った。薬湯を浴び、昼食をとり、また園内で初のゲートボールに、楽しく時の過ぎるのを忘れるように興じる人もあった。長寿園に到着して、来年の再会を約し解散になった。このように実りのある行事の遂行、誇り得る会の今日あるのもその陰に、事務局担当の富田和衛さん、河又利一さんおふたりの奉仕的、献身的お骨折りのあてで感謝に堪えない。二日間を通じて会員相互の友情を温め親睦を一層深めることができ、伝統ある真岡農業高等学校同窓会の茂木支部として、真陸会の将来の結束と発展に大きな期待のかけられることを強く感じた。



同窓生の歩み

茨中支部長 昭和十六年卒 青木 敏憲

私達は昭和十六年十二月八日大東亜戦争開戦のため、その月末に操上げ卒業となりました。実質的には二年十ヶ月の短期卒業にて五三名が卒業したわけですが。その間今田真月校長先生をはじめ、諸先生方の良き御指導の基に、各自の努力により、各分野で活躍奮闘致しており、級友の一人として誇りに思っております。

昨年菊地恒三郎氏が現役市長に大差を付けて、真岡市長に大差をつけて、真岡市長に初当選致しました。金敷芳雄氏、堀口清氏が真岡市議会議員を務められ、菅谷忠太氏、山菅一郎氏、田村好夫氏をはじめ、多くの同級生が地域の発展に貢献されています。また、武田典章氏は経理事務所を経営し、大坪正一氏は獣医師として、小倉信義氏は農家として、それぞれ地域の発展に力を入れています。他には大規模ハウス経営の川島喜延氏、大農経営の鈴木義氏、手島盛一氏服装学園の野沢一夫氏は令息二人が新潟医科大学に勉学中であります。その他それぞれが各分野で大いに活躍致しております。しかし大東亜戦争等に志願或は徴兵により十余名が戦病死され現在までに十六名が不帰の客となっております。ついで御冥福をお祈り致します。

遊びの戯論

前橋市農協委員会事務局長
現前橋市立美術館運営委員
昭和十六年卒

羽吉 和郎

よほど私が遊び好きの閑人とみられているらしい。この頃いろいろの団体から講演の依頼を受ける。老人大学・社会教育団体・婦人グループと相手はさまざまだが交渉の使いに来られる方は申し合わせたように

「テーマは生甲斐論ですが殊に先生の場合、是非焦点を趣味に合せて……中味はまあ適当にお願いいたします」と言ってくる。

考えて見るとどうも私を遊びの専門家のように心得ているかのようである。

もともとそう思われていたしかならない節は充分ある。私が現在所属している遊びのグループだけでも前橋市農協・日本民芸協会・日本の風の会・それに幾つかのゴルフと釣の会があり、県立美術館の運営委員を仰せつかつているもの何のことはない道楽の結晶みたいなものである。

これでは遊び人呼ばりをされてもいたしかならないと自分でも思う。然しその遊びの何でも私は特別の意味を求めて長年やってきた訳ではない。ただ好きで遊びたくて止められずにととう今日に及んだままでのことである。

だがそう言ってしまうと話しにならないから、この頃一体「遊び」とは何なのか自問自答する結果となった。

そうしたら驚くべき大発見をした。

実である。

例えば仕事場の片隅で日なたぼっこをしている工員さんで「お遊びでいいかい」と怒鳴る。工員さんは決して遊んではいない。仕事をせざる休んでいたのである。

こんな大間違いが揃ってか私は長い間遊びに何をかうしろめたい思いをしてきた。そのうしろめたいの言い訳にいらぬ知恵をばらばらした。昔から一番都合のよい言い訳は遊びの理由を神仏にかこつける風習である。神社の祭典にこよえた種々の芸能や庚申講などの講に結びつけた諸行事は何れもこれである。

本当は自分が遊びたくて遊ぶものをこれでは神様・仏様も迷惑千万とお思いであろう。最近「明日の仕事の活力を養うため……」などと最もらしい言い訳をする。これで遊びも仲間も仕事のうちに入ってしまう。さらに「遊びは人間関係の潤滑油である」などと大見栄をさられると独り遊びはもはや無用のものになりかねない。

遊びはやはり遊びとして独立した仕事と併列すべきものなのである。そうしないと今日ではどうも話が混乱するようである。

●●●●●
仕事「働く」多忙「勤勉」と列記すると
趣味「遊び」閑「怠」と反動的になる。しかし仕事「剛欲」軽薄「不幸」と列記すると
趣味「淡々」潤「幸福」となる。

縦の一行ずつ目を下におくつてくれば自然の言葉の流れであるのに横の行は全く逆の意味に到達する。

人間の言葉などと言うものは

はその時、その場で安易に変わる。4月以降毎月学校祭実行委員会を開いてきたが、その総決算ともいえるべき学校祭を11月14日・15日の2日間実施した。11日午後より準備作業を開始し、14日(土)は校内発表というものでした。午前中は開会式に続いて、音楽部のオペレッタ「シンデレラ」とブラス・バンド演奏が行われた。ハイスター「ルラバイ」「イエスタデイ」等が立派に演奏され、全校生徒を魅了していった。昼食をはさんで約2時間、生徒会、各部等の展示発表の見学時間のうちに質疑応答がなされていった。またどの部とも一年の成果である立派な作品が展示されていた。午後は大野原ヤング・フェスティバルを催したが、予選を勝ち抜いた15組の参加者によって美声が披露された。また特別出演の5人の教職員によつて一層盛り上がりが見られた。15日(日)は公開発表というもので、早朝から見学者が来ていた。昨日の催し物に加えて、運動部の招待試合・模範試合等が行われた。各部の展示発表も一般客を対象に華々しく行われた。全般的に客数も多く、全校生徒に良い思い出を残したと思ふ。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。

昭和56年度後半における生徒会活動の主なものは学校祭である。